



校長 坂本 晋

みたけが原便り

第6回 「世にも奇妙な職業案内」

(8月始業式講話)

猛暑の夏休みでしたが、皆さんの元気な顔が出そろったことを嬉しく思います。

先月の終業式では、「失敗もコンプレックスもアイデアと工夫次第で、自分の味方になることができます。『プラス思考』で行動しましょう」と話しました。皆さんはこの夏、何をすることで自分を成長させることができたでしょうか。その成果をこれから2学期の学校生活にぜひ生かして下さい。

もう一つ、夏休みの良いところは、自由に使える時間があるので、普段できないことをやれるということです。皆さんはどんなことに使ったかな。

私の場合は大概溜まっている本を読みます。今年も十数冊読みましたが、その中で、面白かったなあという本が、これ、「世にも奇妙な職業案内」という本です。もともとはアメリカの本なのですが、一風変わった職業が写真付きでいろいろ紹介されています。

たとえば、いかにもアメリカらしいんですが、ドッグフード・テスターというのがある。ペットを飼っている人はどれくらいいるかな？ではドッグフードを食べたことがあるという人は？ドッグフード・テスターというのはドッグフードの試食係。実際に味見をして風味や歯ごたえを採点する仕事です。パトリシアというんですが、彼女は「品質検査は食べてみるのが一番よ！」という人なので、彼女から「ラベルにビーフ味って書いてあるけれど、ビーフなんて一体どこに入っているの？」なんて言われたドッグフードの会社は青くなります。

それから匂い鑑定人というのもあります。人間の脇の下から靴下のにおい使用済みのオム

ツまでどんな臭いも鼻で10段階に嗅ぎ分けます。第一人者はベッツィー・ライオンズという女性ですが、皆さんは覚えていないかな？数年前に、資生堂のAg+という消臭剤のCMで、やたらと臭いを嗅ぎまくるアメリカのおばさんがTVに出ていましたが、この人がその本人です。

それからこの人は、アーノルド・バットライナーという人です。サンフランシスコのセント・フランシスホテルで20年間ひたすらコインを磨き続けました。磨いても磨かなくてもお金の価値に変わりはない。10セント硬貨は10セントです。でもお客がお釣りを受け取った時、ピカピカの輝きと手触りに思いがけずオツと気分を良くする。その一瞬のためだけに手を抜かず磨き続ける。ホテルは彼が亡くなるまで、彼を「ホテルの宝」として待遇しましたが、私はそんなホテルにいつか泊まってみたいなあと思います。どの人もプロ中のプロであるのが伝わってきます。

他にもレゴモデルクリエイターとかビデオゲームテスターとか、皆さんの興味を引きそうな仕事がたくさん紹介されていますが、もう一つ。これは、湯灌土というのもあります。皆さんもお盆でご先祖様をお迎えしたと思いますが、お葬式の時、家族は亡くなった人と最後のお別れをしますね。その時別れを惜しむ家族のために、死に顔を美しくメイクアップするという仕事です。

でも、これはアメリカの専売特許ではありません。日本も負けていませんね。津波や河川の氾濫、土砂崩れの後で、長い間行方不明になっていた人が土の中や水の中から発見されます。そうした遺体は傷ついたりいたんでいます。8

年前の東日本大震災の時もそうでした。その顔を家族が最後の別れを言えるようにきれいに修復して整える、いわば遺体の美容師を仕事にしている人がいます。

それから、瓦礫や土砂の中から泥で汚れた写真を見つけ出して、きれいに洗っては乾かして、無くしたはずの思い出を元の持ち主や家族に返すことをしている人たちもいます。もっともこれはお金を取りませんので職業とは言えないかもしれません。

このように、世の中は実にたくさんの仕事から成り立っています。それぞれみんな違いますが、何かしら役に立っている点ではどんな仕事も一緒です。一つ一つの仕事が、世界という大きなジグソーパズルの小さなピースであって、それが互いにつながりあって世の中を支えているのだ、ということがよく伝わってくる本でした。

みなさんは、できれば自分の好きなことを仕事にしたいと考える。例えば、アニメが好きだから声優になりたいとか、ゲームが好きだからゲームソフトクリエイターになりたいとか、趣味や好きなことでお金をもらえればいいなあと考える。

でもね、たとえば絵を描くのが趣味ですという人は、自分の好きな時に好きなものを好きなように描くから楽しい。それが趣味なんです。ところが、これが仕事になるとどうなるか。いつまでにこういう絵をこんな風に描いて欲しいというお客の注文に応えるためにキャンバスに向かうことになる。楽しくないとはいわないが、場合によっては意に沿わないこともしなければならぬ。ちょっと違いますね。仕事にはそういう一面もあります。

さて、皆さんは、トーベ・ヤンソンという名前を聞いたことがありますか？フィンランドの作家です。知らないという人も、彼女が描いたムーミンといえば、「あああれか」とカバに似たキャラクターを思い出します。その登場人物にスナフキンというのがあるんですがこれ

が時々ボロッと味のあることを言うんですね。たとえば、ある時、ムーミンが「義務ってどういうこと？」と尋ねます。スナフキンは「やりたくないことを、することさ」と簡潔かつ明快に応えます。働くということは一つには自分もその一員である社会のために義務と責任を果たすことです。仕事には必ずそういう要素が入ってきます。

おまけに、仕事は始めてみないと楽しいかどうかは分からないし、相性が良いのか悪いのかもすぐには判断できない。しかも、仕事の面白さというのは、時間をかけて習熟することではじめて実感できます。それまではむしろ辛いことや嫌なことの方が多い。そこで、大学を卒業した若者の3割、3分の1がせっかく苦勞して就職したのに3年もたたないうちに辞めてしまうという現実も生まれます。

事ほどさように、自分にぴったり合った仕事を見つけることは簡単ではない。一筋縄ではないのですが、他の人が「こんなことをやって何になるのか」と思うようなことでも、本人は心から楽しんでいるし、誰かを喜ばせ何かの役に立っている。そういうことを、セント・フランシスホテルの、アーノルド・バットライナーさんは教えてくれます。そこに仕事をすることの奥深さがあるように思います。

最後にもう一つだけ、スナフキンの言葉を紹介します。それは、「大切なのは、自分のしたいことを自分で知ってるってことだよ。」という言葉です。自分のしたいことを見つけるために勉強する、あれこれ試行錯誤してみる。それには、これから秋に向けてが一番いい季節ですね。

皆さんの「Self-discovery」に期待します。頑張りましょう。

(さかもとすすむ／盛岡中央高校附属中校長)